ニュース専修 ウェブ版
2006年6月号
[6面]

校友会代議員会開く

「創立130年に向け校友の総力結集を」（甘竹会長）

▲あいさつする甘竹秀雄会長

平成18年度専修大学校友会代議員会が、5月27日に神田キャンパス303号教室で開かれた。全国から代議員185人（委任状409）が参集。米国、台湾からの出席もあり、大学創立130年に向けての、校友の盛り上がりを感じさせた。

甘竹秀雄会長はあいさつのなかで「全国24万の校友を結集し、315支部の活動を活発にするべく ① 組織の強化・充実 ② 財政基盤の確立ーーが急務だ。現在『専門部会』のスタッフの尽力で、組織は徐々に拡大しつつあるが、3年後の創立130年に向けて、さらに皆さんとともに力を尽くしたい」と述べた。

代議員会は執行部が提出した第1号議案「平成17年度事業・決算報告」、第2号議案「平成17年度監査報告」、第3号議案「平成18年度事業計画（案）・収支予算（案）」を討論のうえ満場の拍手で承認。

その後「報恩の間」で開かれた懇親会で、学校法人専修大学を代表して大場徳敬常務理事があいさつに立ち、日ごろの校友の厚い支援に感謝の意を表するとともに、当面する大学の情勢を説明。諸事業への理解と協力を呼びかけた。

校友会定時総会は7月8日（土）です

校友会定時総会は7月8日（土）、東京・九段の「ホテルグランドパレス ダイヤモンドルーム」で開かれます。詳しいお問い合わせは校友会事務局（電話：03・3265・7579）まで。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版
2006年6月号
[6面]

商学部・松原教授ら11人

韓国税務士制度を視察

3月19日から21日まで、専修大学会計学研究所は「韓国税務士制度視察研修」を実施した。

この研修は、日本税理士会連合会（森金次郎会長）及び韓国税務士会（林香淳会長）の協力を得て実現したものである。視察団は、松原成美教授を団長とし、柳裕治教授及び高橋貞雄専修大学会計人会長を副団長とするほか、税理士8人が随行した。

20日、韓国税務士会本部を訪問＝写真、林会長をはじめとする役員の方々と「韓国税務士制度の課題と展望」及び「日本の会計参与制度」をテーマに懇談を行った。

これにさきがけ、ソウル市内の金錦浩税務士事務所及び盤浦（バンポ）税務署（金光政署長）を訪問し、韓国における税務士業務及び税務行政についてレクチャーを受けた。

韓国の「税務士法」は、我が国の「税理士法」（1951年施行）から10年遅れの1961年に施行されており、我が国に類似する税務代理人制度として社会的使命を果たしている。

一方、韓国では数次にわたって国税基本法を改正し、納税者権利保護に立脚した税務行政手続を法制化するなど、我が国より先進的な制度を有する一面もある。

これを機に、両国の税務専門家の交流が進展することを期待したい。

（視察団事務局長・宮川雅夫）

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

春の褒章

＜6月15日現在判明分＞

◇旭日双光章

野口 浩志氏（のぐち・ひろし＝昭25経学）

◇旭日単光章

牧野 尚氏（まきの・たかし＝昭18専経）

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

≪校友短信≫

堺商工会議所会頭の中尾良和氏（昭29法・本学評議員）は、5月24日に東京・銀座ヤマハホールで行われた日本経済活性化シンポジウム「企業と地域の連携と共生、そしてイノベーションの創出」にパネリストとして出席した＝写真（提供・日本経済新聞社）。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

公開講座のご案内

愛媛、山口両県の連合支部総会に併せて校友会主催公開講座を開講します。どちらも市民・校友を対象とした講座です。

■愛媛県

◇7月20日（木） 18時～20時30分 愛媛県松山市民会館（中ホール）

お問合せ：（公開講座1・2とも）伊予おおとり会事務局 河野 弘 （電話：089-923-1622）

『グランブルーの世界へ』

◇講師＝中村 幸昭氏 （昭26経学・鳥羽水族館名誉館長）

『優れた企業家とは…』

◇講師＝黒瀬 直宏氏 （本学商学部教授）

■山口県

◇7月23日（日） 13時～15時 山口県岩国市「シンフォニア岩国」（大会議室）

お問合せ：山口県支部連合会幹事 伊達 明彦 （電話：0827-21-2291）

『千年の時空 源氏物語』

◇講師＝原 豊二氏（国立米子工業高等専門学校専任講師）

『愛と感動と夢の世界』

◇講師＝澄川 喜一氏 （元東京藝術大学学長）

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版
2006年6月号
[6面]

≪専大校友を訪ねて≫

「熟練の技」と「若い力」を生かす

— 創業以来「定年なし」西島（株）代表取締役社長 西島篤師（とくし）さん（昭49経済）

「品質で勝負」の工作機械メーカー西島（豊橋市）の三代目舵取りだ。同社は1924年の創業以来、定年なし。社員150人のうち最高年齢は78歳。熟練の技と豊かな経験が、確かなもの作りの軸となる。「技能は一生を通じて究めるもの。それが会社の宝になる」。

創業時は船舶用や農業用の発動機を手がけ、現在は自動車をはじめ工作機械製造が主。下請けなしの自社一貫生産体制を実直に貫き、顧客のニーズには柔軟に応じる。

一方で慣例にとらわれず改革にも意欲的だ。業界でもいち早く年功序列制を廃し、能力主義を取り入れた。バブル崩壊後の不況時に、全自動選花結束機を完成させ、新たな市場開拓も。ドイツなど外国企業との業務提携にも積極的だ。

4月の改正高年齢者雇用安定法の施行で、企業は雇用延長制度導入を義務づけられているが、「定年なし」実施の先駆者としてNHKテレビなどメディアで特集が組まれ、講演にも度々呼ばれる。

高齢者対策にとらわれているのではない。「効率の追求には若い層を」と管理職には中堅ばかりでなく若手も抜擢。向学心旺盛な社員にはバックアップを惜しまない。そこから生まれた「老・壮・青」の見事なバランスが、西島の屋台骨を支えているのだ。

豊橋市出身。経済学部に学んだ専大時代は、学生寮に入り空手部で主将も務め、「志を持つこと、団結の大切さを学んだ」。

同社に入社間もないころ、先代の故西島正雄社長に勧められ、語学の勉強にドイツへ留学。「4カ月のつもり」が6年に。全く話せなかったドイツ語を、連日数時間のみの睡眠で習得。同国有数のカールスルーエ工科大に入学し門外漢だった工作機械学、機械設計学をマスターした。

踏み出したら後には引かない。「若い時の苦労は、買ってでもした方がいい」。大きな目が優しく光る。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.